



北3階病棟

部署の特徴

北3階病棟は、主に緊急入院を要する方、小児科の患者様が入院しています。病床が全室個室という特徴があります。入院されている大半が臨時入院された患者様であるため、あらゆる診療科の対応が求められます。そのうち呼吸器疾患、消化器疾患の患者さんが最も多く、次いで脳神経内科、一般外科、循環器内科、整形外科となっています。COVID-19流行期には、全室個室という特徴を活かし、感染症患者様の管理が必要となった際に活躍しました。様々な疾患の患者様と関わることができ、入職時から多くの学びを深められます。また、小児科病棟としての役割も担っており、小児患者様の受け入れを行っています。小児科で関わる主な疾患は以下です。

【小児科】

緊急入院(喘息、痙攣、肺炎、川崎病、インフル、胃腸炎、虫垂炎、ネフローゼ症候群)

予定入院(食物負荷試験)

【小児外科】

手術(虫垂炎、鼠径ヘルニア、埋没抜歯術、漏斗胸)

患児への治療が適切に行えるよう発達段階に合わせた看護を展開しています。

病室や廊下は季節のイベントに応じた飾り付けがされており、患児の恐怖心を和らげるような環境を施しています



勉強しておくの良いこと

学校で習っている基礎看護技術や社会人としてのマナーを身に付けておく必要があると思います。

よく使う参考書・教科書

初めの頃は基本的な看護技術の実践のために学生の時から利用していた「看護がみえる」などを活用していました。

疾患に関しては「病気がみえる」や学生時代の教科書を活用していました。

